

(セッション NO. 14)

「広野町の課題に向き合います! ～ふたば未来学園高校生の挑戦～」

○開催日時：平成27年9月18日(金) 11:00～12:30
(ランチ交流会 12:40～13:10)

○場所：広野町中央体育館(アリーナ)、(ふたば未来学園高等学校食堂)

○コーディネーター：(氏名 対馬 俊晴)

○参加者数 約50名

○概要

1 第1部 広野町の課題を演じる～演劇パフォーマンス～

4月～7月、学校が進める「ふるさと創造学」授業で取り組んだ「演劇」のうち、今夏ベラルーシ共和国で演じた創作英語劇を披露した。高校の同級生であった友人同士が、原発事故後の再会で自分たちの職業とその仕事に臨む姿勢を巡り、互いに葛藤する様子を描いた。

2 第2部 海外に出て感じる福島～ベラルーシ研修報告～

今夏生徒7名が参加した、かつてチェルノブイリ事故で被災したベラルーシ共和国研修の様子と、そこから見た福島の影響について発表がなされた。また、生徒同士互いに交友を深めたことから、両国間での友好関係の重要性を認識して帰国したことが報告された。

3 第3部 意見交換

参加した高校生自らが課題意識を持ち地元を見つめつつ世界に目を向けている様子が表れ、来場者から多くの称賛が与えられた。特に演劇では、原発事故後、多領域において様々な課題や葛藤が渦巻く中、その複雑に絡み合う内容の神髄を的確に表現しているというコメントが寄せられた。また、海外招聘研究者の方から、彼らの事故当時の心情や今後の進路などへの質問があり、生徒たちは堂々とそれぞれ自分の意見を述べることができた。一方、ベラルーシ共和国の政情や原子力発電に関する諸問題や実情、環境・エネルギー問題に対する課題等、更なる学習強化を促される場面もあった。加えて、学校から与えられる教育に留まらず、自身の意思で学校の枠を超える学習にも挑戦するよう励ましの言葉もあった。

○クロージング(まとめ)

・本セッションの成果(関係者のネットワーク構築、情報共有・・・等)

高校生にとっての重要な学びの場になっただけでなく、教育分野からも挑戦している様子など、国内外の参加者に対しても有益な面が多数あったと捉えている。また、復興を支えていく人材育成のため学校教育と行政・地域住民とが繋がる良い機会となった。さらに、海外招聘研究者とのコンタクトも得られ、一層の学習・見識を深める機会を得るために紹介いただいた国連本部を訪問できるよう機会を模索していきたい。

・今後の展開、方向性・・・等

ふたば未来学園高校が開校してから半年の間もない中での参画であったが、今回の成果を踏まえると、広野町との連携による高校生への学習効果並びに高校生が生み出す地域活性効果は大きいと考えられる。今後、行政と学校との連携をより深めていきたいと考えている。